新名惇彦先生の逝去を偲んで

新名惇彦先生が御逝去されました．謹んでご冥福をお祈りします．第14代会長を務められた新名先生の学問業績や生物工学会への貢献は広く知られるところです．その一方，気さくなお人柄でいつも周りには新名先生を慕う人々が集まっていたと思います．私もその一人でした．新名先生との出会いは，私が，故岡田弘輔先生（第8代会長）の研究室に配属されたときです．新名先生の研究グループで修士論文研究をしましたが，研究の話よりも，阪神タイガースの話をよくしました．それでも巧に褒めていただいたおかげで研究は進捗し，1984年秋の醗酵工学会で人生初めての学会発表をすることができました．就職先は，新名先生が面白いと言って勧めてくれた日東電工にお世話になりました．本当に面白かったです．1995年春に，新名先生が奈良先端大に異動されたので，その後任教授の小林昭雄先生の研究室の助教授として大阪大学に戻りました．その後も，いくつかのプロジェクトに誘っていただき大変お世話になりました．お世話になりっぱなしでまだ恩返しができていません．生物工学会を少しでも盛り上げることでご恩に報いたいと思います．ありがとうございました．

（大阪大学大学院工学研究科生物工学専攻　教授/日本生物工学会会長　福﨑英一郎）

阪大の一学生として，醗酵生理学の講義を受講したのが，新名先生との出会いでした．以来，40年以上の長きに渡り，とても可愛がっていただきました．新名先生の生き方を，一言で言うと「皆を巻き込んで，楽しく過ごす」ということです．色々な場面で御一緒させていただくと，大学や企業の関係者はもちろん，事務職員，食堂や掃除のおばさん，ホテルのボーイ，タクシーの運転手，とにかく周囲のあらゆる人たちを巻き込んで，そして楽しく時間を過ごしておられました．「すごいですね」と私が言うと，「皆で楽しくやったらええやん」と明るく御返答されました．なかなか真似のできることではありませんが，私の大切な人生訓になっております．また，もう一つ大切なことを教わりました．それは，薬師寺での写経です．新名先生から誘われた時は，あまり乗り気ではなかったのですが，筆先からストレスが消えるような感覚に魅了され，以来，すでに20枚以上，写経を続けております．

新名先生の御冥福を，心よりお祈り致します．

学会活動は，もちろん，阪神タイガースの応援や写経についても，これからは，私が皆を巻き込んでいきたいと思います．

（北陸先端科学技術大学院大学　教授/日本生物工学会　前会長　髙木　昌宏）

2018年第70回日本生物工学会大会懇親会にて乾杯の音頭を取っていただきました

本学（奈良先端科学技術大学院大学）名誉教授の新名惇彦先生は，1994年にバイオサイエンス研究科教授に着任され，植物バイオテクノロジー分野で国際的に優れた業績を多数挙げられました．2008年にご定年退職後は理事・副学長を務められ，その後も特任教授として本学の発展に多大な貢献をされました．僭越ながら本学を代表し，先生にお世話になった新城雅子客員教授，加藤晃教授らとともに，謹んでご冥福をお祈り申し上げます．個人的には，本学に着任した15年前から本研究科教授としての立ち振る舞いだけでなく，学生の就職支援，海外協定校との交流活動，産官学連携など，さまざまな業務に関して愛情あふれるご指導をいただきました．改めて心より感謝申し上げます．茨木高校の大先輩で「親分肌」の先生との思い出を一つあげると．本学に着任して早々に米国ミネソタ大学バイオテクノロジー研究所での合同シンポジウムに誘っていただき，現地で多くの研究者をご紹介いただきました．先生のリーダーシップと人脈に圧倒されましたが，その後同大学との交流活動を円滑に進めることができました．天国では，吉田和哉先生と再会され，お酒やタバコを楽しみながら阪神タイガースを心ゆくまで応援されてください．

（奈良先端科学技術大学院大学 バイオサイエンス領域　教授　高木　博史）

ご専門を植物バイオ分野へと軸を移された新名先生から，最初に博士の学位を頂きました．デンマークのWelinder教授が化学的手法で決定した西洋ワサビペルオキシダーゼ（HRP）のアミノ酸配列をもとに，大阪大で柴山氏（現，小野薬品），小林氏（現，キリンビール）と供にHRPcDNAをクローン化して塩基配列を決定しました．後日，W教授が新名先生を訪問されて，W教授からその配列が正しいことを証明できたと話された時の先生の喜びに満ちたお顔を忘れられません．大阪大で教授に昇任され，植物バイオ研究を根付かされました．その後，奈良先端大教授として転任されました．また，国の植物バイオプロジェクトを牽引され，第14代会長として生物工学会にも大きく貢献されました．今でも1985年の阪神タイガースの優勝の時を思い出します．阪神ファンの先生は，酒席の場で「六甲おろし」をよく歌っておられました．病気から回復後の懇親会で，「お酒はもうやめませんか」と申し上げても「酒で体調を崩した訳ではない」と仰っていました．2021年も阪神は優勝できませんでした．今でも「なにしとんねん」という応援（「やじ」）が聞こえてきそうです．ご冥福をお祈り申し上げます．

（大阪大学生物工学国際交流センター　教授　藤山　和仁）

奈良先端科学技術大学院大学と米国ミネソタ大学バイオテクノロジー研究所での合同シンポジウムで同研究所長のKen Valentas先生との思い出の一枚

奈良先端科学技術大学院大学と米国ミネソタ大学バイオテクノロジー研究所合同シンポジウムでの一枚．左から新名先生，Marc von Keitz（当時Associate Director），金谷重彦先生，Friedrich Srienc先生，Valentas先生，高木博史先生

It is a great honor for me to write this memorial tribute to Professor Atsuhiko Shinmyo, my friend and colleague for over 30 years. As two young associate professors, we explored the exciting opportunities being provided by the field of biotechnology. Professor Shinmyo possessed the ability to see research opportunities before they became obvious to others. He knew how to bring together the best researchers, young and old, to work on nature's most challenging problems. Using the power of biotechnology and interdisciplinary approaches, Professor Shinmyo helped many young researchers establish long and productive careers. He was friend and mentor to many and only asked one thing of us; we had to love the Hanshin Tigers.

(Raymond Rodriguez, Professor Emeritus,
Department of Molecular & Cellular Biology, Executive Director,
Global HealthShare – University of California, Davis)

Prof. Atsuhiko Shinmyo was my direct adviser when I was a Monbusho student studying doctoral degree at Department of Fermentation Technology (now renamed as Dept. of Biotechnology), Faculty of Engineering, Osaka University. During that period (1980–1984), Shinmyo sensei was Associate Professor in Prof. Hirosuke Okada Research laboratory. Though it was a long time ago, but I still remember his kindness to me and other students under his research team. Despite the fact that, we all worked very hard, but we did have many cheerful moments. What we have achieved was undoubtedly contributed by his kind support and his scientific talent which we can never forget. Not only scientific knowledge he provided to me, but also Japanese culture and lifestyle such as bringing me and students to watch a baseball game at Koshien Arena, visiting Onohara for seeing a heavy snow fall, as well as Japanese drinking styles. He also provided Hakama and Kimono for my graduation ceremony to receive the degree on stage. I do appreciate his thoughtfulness for a foreigner student like me. Shinmyo sensei has achieved a great success in academic and administrative careers. He had lived well, laughed often, and been loved much by all of his students. The achievement and adventures we had together with him will be remembered. It was sad to hear that he was passed away on 28th September, 2021. He will be solely missed, and memories of sensei will last forever, gone but not forgotten.

In loving memories and full of gratitude.

(Emeritus Professor Watanalai Panbangred, Mahidol University
Current Affiliation: King Mongkut's University of Technology, Thonburi)